

兵庫 県協  
保険 医協

西宮 芦屋

支部 ニュース

### 第30回総会記念市民公開講演会

No. 287

2010・8・5

発行  
〒662-0074

兵庫 県協  
兵庫 県協  
西宮市石劔町十八ー八

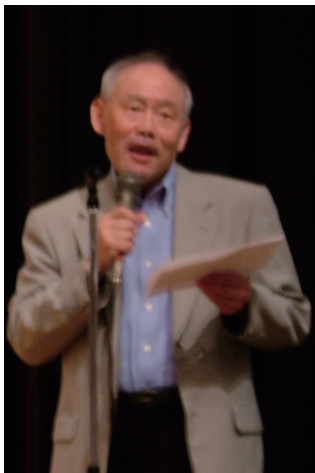
大森内科医院内  
電話 〇七八(三九三)一八〇一

# 共感と感動の民族音楽を体験

7月10日、西宮市立勤労会館で「民族音楽の旅」をテーマに第30回総会記念市民公開講演会を開催。医師・市民ら205人が参加した。司会を務めた坂尾福光先生(西宮市ビューハイッククリニック)の感想文を掲載する。

『誰もが聞いていっていると、気持ちやわらいたり、元気がでてきたりする音楽。その飾らない音色で多くの人に親しまれているのが民族音楽によって奏でられる音楽です。』と、親しみ深く、笑顔が素敵なロビンさんは流暢な日本語で語ってくれました。

民族音楽を英語で Ethnic music というので、近代・現代音楽と違ってシンプルな楽器を使い楽譜は要らないという。民族楽器はその国の生活や環境、歴史、文化と深く係わります。  
米国(シカゴがある)イリノイ州で生まれ育ち幼い頃から音楽、特に「音」に深く興味を持ち、高校時代から民族音楽に興味、大学でその道の研究をしました。大学卒業後は米国を飛び出し、世界50カ国を回り各国・地域を数ヶ月単位で滞在し現地の人々と一緒に生活をしながら民族の音楽を会得してきました。  
静かに照明が落とされた200人を超え



カリンバを演奏するロビン・ロイドさん(右)と司会を務める坂尾先生(左)



ロビン・ロイドさんの楽しいお話と演奏に拍手を送る参加者

る聴衆の後ろの席からスウェーデンの縦笛を静かな音色で奏でて入場。筒も穴もないという単なる1本の棒を不思議にも、息使だけで清らかな高い音、軟らかい低い音と聞き入ってしまいます。お年寄りの施設や障害を持つ方たちのための音楽療法を実践・普及に努められています。西宮市の身障者の方たちにも、癒しの音楽療法を指導している関係で、彼の生徒さんが沢山ロビンさんを応援に来てくれていて、ロビンさんはすごく喜んでいました。  
身の回りにある自然の物全て、例えば木、竹、石、草、木の実、豆、動物の骨・ひずめ、針金・金物など全てがロビンさんにとっては楽器に変身します。森林の中の鳥のさえずり、風のささやき、打ち寄せる波の戯れ、雨音の癒し等を交えながら、澄んだ音色の笛で奏でる曲。曲といってもロビンさんには楽譜は無縁です。その時、その瞬間の気持ちで曲を作り(作曲)、音を楽しみ(音楽)、聞く人と共に感じ(共感)、観客はロビンさんの音色に共感し体を動かしリズムを取る(感動)。  
アフリカのサハラ砂漠で現地の人たちと生活を共にした体験も紹介してくれました。眩しいほどの星が水平線から満天に輝く夜空。  
「明かりのスイッチ消してくれ」という

ほどまぶしくて眠れない満月。全てを体で触れて、感じて、会得・納得するロビン流儀です。

京都に落ち着いて20年、日本の尺八も素晴らしい。お祖父さんが住むイギリスで吹く尺八と、日本人相手に奏でる尺八の手技の違いを紹介してくれました。最後に手作りのシロフォン(木琴)で夫と妻が言い争いを始め、終わりには仲むつまじく治まるストーリーを演じ、参加者の笑いでロビンさんのライブ&トークを皆さんの感銘、共感、感動と満足のうちに市民公開講演会を終了しました。

ロビン・ロイドさんを招待してくれました。広川先生は、この講演の前日にも、奈良でのロビンさんの演奏会に行かれ、記念講演会当日には会場に一番に駆けつけてロビンさんの準備をお世話して頂きました。広川先生の熱意に感謝申し上げます。当日観客としてご参加していただきました会員先生方、スタッフ、ご家族、ご友人、患者さん方にロビンさんから深く感謝を申ししておられました。癒し(ヒーリング)のCDもほぼ完売となり、昼寝のBGMとして聞いて楽しんで下さいとのことでした。

【西宮市・ビューハイッククリニック】  
坂尾 福光

## 広本先生慰労会を開催

6月19日、音羽館音楽園店で広本秀治先生(西宮市・医療法人社団広本外科)の慰労会を開催。世話人ら9人が参加し、昭和60年の開設以来、26年間にわたり地域医療に貢献されてきた広本先生の労をねぎらった。



支部長の大森先生(右)より花束を受け取る広本先生(左)

## 第24回漢方研究会

# 2倍学べた漢方研究会

6月26日、西宮神社会館で「こころの病と漢方治療」軽症うつ、ストレス、不眠等の使い方」をテーマに第24回漢方研究会を開催。奈良県・岡クリニクの岡留美子先生を講師に、医師・薬剤師ら91人が参加した。川崎史寛先生（西宮市・川崎医院）とともに司会を務めた長光由紀先生（伊丹市・ウイング調剤薬局）の感想文を掲載する。



精神科医療と漢方のかかわりについて講演する岡先生

奈良県生駒市で開業されている岡留美子先生をお迎えして、第24回西宮支部漢方研究会が開かれました。梅雨前線の影響でかなり足もとが悪い中、91人も熱心な参加者に来ていただきました。

余談ですが岡先生は「奈良県保険医協会会員ですが漢方研究会を開いているとは聞いたことがありませんよ。支部で24回目とすぞいすね。」と驚かれました。

精神科医療は精神療法（カウンセリング）と薬物療法の二本柱があるが、患者さんの向精神薬への服薬抵抗がかなりあり、身体症状を漢方薬で治療することで薬物療法導入の糸口となるようです。

また漢方薬と精神科薬は相通ずるところがあるそうです。

①「飲み心地が大切」：熊木徹夫先生が『精神科薬物の官能的評価』の中で述べられた薬の『味わい』、使用してみた『感触』

治療戦略における『使い分け』が漢方薬と同じ。

②「精神科薬にも『証』がある」

③「作用副作用の詳しい説明による良い信頼関係の形成」

その他、漢方薬を使う意義として、高齢者に対して全人的医療を行える（多剤併用による弊害をなくせる）ことを強調されました。

後半は常用5処方（半夏厚朴湯・柴胡加竜骨牡蠣湯・抑肝散加陳皮半夏・四逆散・甘麦大棗湯）の症例について詳しく解説していただきました。特に統合失調症の男性患者さんの精神運動興奮状態に「ナツメ」を煎じて飲まず民間療法が効いたという母親の言葉から、「甘麦大棗湯」全て食品由来」を処方するようになったという点は興味深かったです。

質問コーナーでた精神療法の「解決志向アプローチ」については、先生のご専門だったので実際の手法を示してわかりやすく解説をされ、薬局での患者さんとの会話でもすぐ使えると思えました。カウンセリングの勉強もできて二倍得した感じでした。

【伊丹市・ウイング調剤薬局 長光由紀】

## 職員接遇研修会

# 患者の心に届く接遇を学んだ

6月19日、西宮市立勤労会館にて職員接遇研修会「接遇の基本とクレーム対応」を開催。24医療機関から事務職・歯科助手・看護師ら60人が参加した。講師は大手前短期大学准教授・水原道子先生、司会は西宮市・みやざきレディースクリニックの宮崎義彦先生が担当した。参加者から多数寄せられた感想の一部を紹介する。

○ 水原先生のお話は良く現場のことを理解しておられ、何度も頷く点が多く、これからの私どもの仕事に役に立つ2時



向かい合わせに座り、接遇のケーススタディを行う参加者

間でした。これからも今まで以上に少しでもこの医院に来てよかった。また来たいと思われようにしていきたいと思えます。研修会に出席でき、お話を聞けたこと、ありがたうございました。

○ 接遇の基本であり最も重要なポイントが「笑顔」であるということがよく判りました。ケーススタディで他院での考えに触れることができ、とても新鮮でした。

○ 日常的によく起こることを具体例にあげて話して下さったのでとても分かりやすかったです。やはり医療の仕事は患者様の目線に立って相手の気持ちを察することが大事だと改めて思いました。明日からまた初心に戻って頑張ろうと思います。

○ あたり前の小さなことの積み重ねにより、ファンを増やす努力、工夫をすることの大切さを改めて痛感しました。そして、「お役にたきたい」という初心を取り戻すこと、これは聞いていてドキツとしました。医院に帰りましたら、ぜひ勉強会を開き、本日来られなかったスタッフに今日の内容を伝え、患者様の心に届く接遇に努めたいと思えました。

○ 言い方ひとつで患者様の気持ちが変わり、気持ちよく病院に来ていただけることがわかりました。今まで待ち時間を伝えるのに困っていたことがありましたが、今日教えてくださったことを参考にしていきたいと思えます。

## 世話人会だより

西宮・芦屋支部は6月25日にフレンテ西宮練習室、7月23日に西宮医療会館で世話人会を開催し、それぞれ5人、9人が参加した。

### 【報告】

- ① 第24回漢方研究会（6・26）
- ② 第30回支部総会（7・10）

### 【予定・企画】

- ① 新規開業医納涼交流会（7・24）
- ② 第24回在宅医療研究会（7・31）
- ③ 保険請求事務講習会（7・31）
- ④ 第25回在宅医療研究会（11・13）
- ⑤ 英語で診療#27
- ⑥ 英語で診療#28

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。